

ニシン^{りょう}漁の歴史

1. アイヌの人たちとニシン^{りょう}漁

アイヌ(※19)語でニシンのことを「ヘロキ」または「エロキ」といいますが、この名前のついた地名が北海道各地に残^{のこ}っていることなどから、アイヌの人たちもニシンを漁^{ぎよ}か^{かく}獲していたといわれています。

また、北海道の日本海側^{がわ}のアイヌの人たちは、ニシンのことを「カムイチェプ(※20)」と呼び、鮭^よと同じように重要^{さけ}な食べ物として考えていました。

その漁法^{ぎよほう}は、網^{あみ}ですくい獲^とる簡単^{かんたん}な方法^{ほうほう}で、まだ自分の家の食べ物としてしか考えていませんでした。

※19 アイヌ

北海道の先住民族^{せんじゅうみんぞく}。

※20 カムイチェプ

神の魚。一般的には、鮭^{さけ}のことをいう。